

社会福祉法人1980 平成26年度事業報告及び平成27年度事業予定

社会福祉法人1980では、今年度より、介護保険事業における訪問介護事業（4月～）及び障害児を対象とした放課後等デイサービス（7月～）を新たに加え、以下の事業の運営を行います。

- 地域生活支援センター「Heart Link」・・・居宅介護事業（障害者ヘルパー派遣）
訪問介護事業（高齢者ヘルパー派遣）
- 福祉ホーム愛・・・福祉ホーム（地域での生活の場の提供）
- 重度障害者活動拠点「1980夢」・・・生活介護事業（日中活動の場の提供）
- 指定短期入所事業所 夢・・・短期入所事業（緊急時のショートステイ）
- 指定相談支援事業所 ひらけごま・・・相談支援事業
- 放課後等デイサービス 遊・・・放課後等デイサービス（障害児対象デイサービス）

平成26年度の法人の決算報告の概要は以下の通りです。

収 入		支 出	
障害福祉サービス等事業収入	146,016,773	人件費支出	105,923,035
借入金利息・寄付金収入	227,250	事業費支出	7,342,504
借入金利息・補助金収入	645,600	事務費支出	11,900,540
経常経費・寄付金収入	562,000	支払利息支出	1,419,080
受取利息・配当金収入	25,008	その他の支出	1,427,055
その他の収入	2,852,204	設備資金借入金元金償還支出	6,405,500
施設整備等補助金収入	2,966,400	固定資産取得支出	2,072,736
施設整備等寄付金収入	9,772,750		
設備資金借入金収入	39,000,000		
積立資産取崩収入	15,000,000		
前期末支払資金残高	36,234,974	当期末支払資金残高	116,812,509
合 計	253,302,959	合 計	253,302,959

障害者の地域生活の場の提供及び高齢者の地域生活支援事業を新たに行うため、新事業立ち上げの準備を昨年度より本格的に始めました。とはいえ、実際に事業を開始するまでには、まだまだ長い道のり・・・事業が軌道に乗るまでには、さらに長い道のり・・・ですが。

“みんなのそばで暮らしたい”という願いのもと、障害児・者、高齢者共に、それぞれが住み慣れた場所で、よく知った人たちの中での暮らしを実現するために、これからも微力ではありますが邁進していきたいと思っております。
(職員：足立由紀)



重度障害者活動拠点「1980 夢」



毎週土曜日、知的に障害を持たれたメンバーや、車椅子のメンバーといろんなところへ出かけています。プールやおやつ作りの他に、バスに乗ったり、電車に乗ったりして、東山動物園や名大祭などにもでかけました。

メンバーと一緒に出かけしていると、いろんなところから視線を感じます。一人一人違った、変わった車いすに乗った、普段あまり見かけない重度の障害を持たれたメンバーの様子を見て、不思議そうな目でこちらを見ていたり、びっくりしている子どももいます。中には近寄ってきて「この人どうしたの？」などを率直な言葉で話しかけてくれることもありますし、中には気を遣われた親御さんが「あまり見ちゃダメよ」と子どもに話していることも・・・。

子どもたちが少し大きくなると、<障害を持った人にはやさしくしなくてはいけない>、<じろじろ見てはいけない>などと大人から教えられ、メンバーに対し、話しかけてくる子はいません。重い障害を持たれたメンバーは子どもたちにとって「特別な存在」なのかなと思います。そういえば、私もそうでした。私は大学生になるまで、重度の障害者の方をほとんど目にしたこともなかったし、そういう人達がいるということも知りませんでした。

メンバーのことを「見てほしくない」とは思いません。むしろ周りの子どもたちに、どう見られるか、どう感じてもらいたい、それを考え、実践するチャンスだと思っています。そういった理由から、メンバーとのお出かけ時には私もいつにも増して気合が入ります。メンバーに対し、「何が食べたい？」など問いかけたり、話をしたり、一緒に楽しんだり、ときには注意することだってあります。そんなとき、子ども達は「あれ？」と私のことも不思議そうに見たりします。表現方法はいろいろですが、メンバーもみんなと同じように何か伝えたかったり、楽しかったり、嬉しかったり、怒れたりもします。子どもたちに「なんか自分たちと同じように話しかけてるぞ」「楽しそうだぞ」とか思ってくれていたら嬉しいなと思います。

いろんな人が身近にいるのが当たり前の、みんなにやさしい世の中になったらいいなあ、なんて思いながら、これからもメンバーとどんどん街に出かけていきます！！

(職員：小池麻衣子)



4月で、就職して3年目に入りました。私は現在5名のメンバーの日中活動の内容を考えています。以前は3名の方の日中活動予定表を考えていたのですが、現在は5名になり、さらにその中に今まで関わりの少なかったメンバーもいらっしやったりす

るので、どういう活動内容にしていけば、「メンバーのため」になり、なおかつ楽しめる内容になるのか、考える日々を送っています。5名のメンバーといっても、それぞれできることやできないことが大きく違っていたりするので、メンバー全員で同じ活動をするということがなかなか難しいのが現実です。

担当している5名のメンバーの中にT・Mさんという方がいます。毎日歩く練習をしています。歩行器も使ったりしています。介助する側が「楽しく歩く」ことを意識していても、長時間歩いていると疲れてきたり、そもそも最初からあまり歩いてもらえないことがあります。やっぱり単に「嫌なこと」だからやりたくないというだけでなく、それぞれの場面でいろんな理由があるのだと思います。今Mさんは何を考えているのか何を思っているのかを考えながら、次は自分はMさんのために何をすれば良いのかをその都度判断していかなければいけないと考えています。

3年目となり、拠点に来られるメンバーのことが少しずつ分かってきて、ただメンバーの介助をするだけではなく、メンバーひとりひとりの目標は何か、「メンバーのため」とはどういうことなのか・・・もっと考えて、なおかつその考えを周りの人たちに伝えて、もっと話し合っていくことが大事なのかなと思います。(職員:年光 弘明)



メンバーと関わっていると、様々なコミュニケーション方法があります。まさに、十人十色です。「おでかけしたい！」とジュスチャーで教えてくれて、介助者が言葉にして確認したり、その時の状況に合わせて声を出し「今これがやりたい！」と教えてくれたり、文字盤で一文字ずつ指さしながら教えてくれたり、絵カードを指して「トイレ」と教えてくれたり・・・みんなそれぞれの方法でコミュニケーションをとっています。

「知的にも身体的にも障害の重いメンバーと本当にコミュニケーションがとれるの？」と疑問の声も聞こえてきそうです。思い返せば、私も職員になったばかりの頃、「障害の重いメンバーは意思疎通できない」「何も言えない」そんなひどい先入観がありました。そんな時、ひとりのメンバーが「ごはんが食べたい！」と口元を指しながら教えてくれたことに、驚き、そして喜びに変わったことを今でもよく覚えています。これがきっかけで、メンバーとの関わりも少しずつ楽しみに変わりました。

障害が重くても、私たちと同じように喜怒哀楽があることを日々の関わり、様々な場面で、感じさせられています。人として、喜怒哀楽を共感したい、人とつながっていききたいという思いは誰もが持っているのではないのでしょうか？それはメンバーも同じです。そして、思いを共有することから介助者との信頼関係が生まれたりします。

ただ、メンバーと共感したいと思っても、実際に関わっていると、声かけの仕方、

関わり方で悩む場面がたくさんあります。知的にはそれほど重度の障害がなくても身体障害が重く、自分からその思いを伝える手段がなかったり、言葉が理解できないために、声かけの意味が理解できなかったりということがあります。それぞれの知的障害の状態、今までの生活環境によって、関わり方が違ってきます。「どのような声かけなら理解できるかな？」と考えてみたり、おいしいものを食べてうれしい表情をされた場面で「おいしいね」と声かけをして状況と言葉を結びつける努力してみたり・・・そのひとつひとつの関わりが、コミュニケーション能力につながってメンバーそれぞれの生きる力になればと思い日々活動をしています。メンバーが何を伝えたいのか分からず悩むときももちろんありますが、心が通いあったときの喜びはひとしおです。これから、新しくメンバーに関わる方たちにも、その喜びなど上手く伝えていけたらいいなと思います。

(職員：守田 歩)



6月に入り、暑くなってきました。「どようだでしょう」や日中活動ではメンバーと地域のスポーツセンターのプールに行くことがあります。プールに入ること、車いすに乗っているメンバーも、歩くことができたり、力を抜いて浮くことができたり、普段の活動ではできない身体の使い方ができるのでメンバーにとって大切な活動であると思います。

他にもプールに行く理由があります。プールに行くと、「他者からの目」を感じます。他のプール利用者の方から「どこから来たの?」「気持ちよさそうにしているね」「歩くことができるんだね」などと声をかけていただくことがあります。メンバーの存在を知ってもらえることはうれしいことだと思います。ただ全ての方が温かく見守ってくれているわけではないとも感じます。人にはそれぞれの考え方があり、その考え方を变えることは簡単ではないと思います。

私自身も、街で障がい者の方を見かけたとき、どんな「目」でその人を見ているのかと考えると、必ずしも温かく見ることができているとは思いません。自分との【違い】をとっさに見ようとしてしまう人としての未熟さを感じます。

だからこそ、メンバーと一緒に地域にとび出していき、少しでも多くの人にメンバーの存在を知ってもらうことが大切だと思います。

(職員：林 真理)



先日、メンバーと一緒に名古屋港水族館へ行ってきました。

名古屋港水族館の入館料は大人一人 2,000 円です。ある程度障害が重く、外出に介助が必要だとみなされる障害者の方は、手帳を提示すると本人及び介助者 1 名分が無

料になります。

ただ、障害が重いメンバーは、トイレ介助等、移動が必要な場面では、介助者が1名では足りません。介助者2名で抱えて、“どっこいしょ”と、車イスからおむつ交換台までの移動が必要です。そうすると、障害が重く、複数の介助者が必要な方は、“必要な介助者数－1名×2，000円”の入館料を負担しなければなりません。障害が重く、複数の介助者が必要な人ほど、本人の負担額が増えていく…というのは、なんだか納得がいきません。

本来、障害者割引は何のためにあるのでしょうか？

障害の為に、働いて収入を得ることができない人たちは、障害者年金や手当で生活されています。自分で働くことができる人たちと同じ水準の額の年金等が支給されるのであれば、健常者と同じ額の入館料を支払うべきです。しかし、実際は、多い人でも月額10万円ほどの収入しか保証されていないので、障害者割引があるのだと私は思っています。

ただ、障害者だけがさらに介助者分の入館料を支払わなくてはならないのは、ちょっとおかしいと思いませんか？外出するために必要な介助者分については、負担を免除されるべきです。

“障害が重ければ重いほど、必要な介助者が増えるので、本人の負担額が増えていくというのは平等ではない”ということも、水族館のスタッフの方に伝えたところ、「入館料の割引については市の条例で決まっています。」「要望があれば、名古屋市にお願いします。」と言われました。それならば、その条例はどんな内容になっているのだろうと調べてみたところ、“水族館の運営を行う団体の管理者が必要だと判断するときは、例外もあり得る”といった内容が書かれているではありませんか！

もう一度、そのことを水族館のスタッフの方に伝えて、「管理者の方に説明してほしい。」と訴えたのですが、「今回のケースは前例もなく、その“例外”に該当しないのだ。」と言われてしまいました。“前例がないから認められない”というのは、どうも納得がいきません。担当の方が「おっしゃられることはわかります。」と言われるのであれば、是非、管理者の方に向けあっていただきたいと思います。

結局、「すぐに答えが出せる問題ではありませんが、上の者に報告して検討させていただきます。」と言われ、こちらの要望を伝えて帰ってきました。いつお返事がいただけるのかは不明だそうです…。

一緒に出掛けたメンバーはというと…イルカショーを観たり、“シャークステーキ”を味わったり…いろんな楽しみ方で水族館を堪能してきました。

また今度、メンバーと一緒に今回検討していただいたお返事を聞きに、水族館へ行ってきます。

(職員：足立由紀)



学生ボランティアサークル おでん



～おでんの煮込みが二年目になりました～

早いものであつと言う間に1年が過ぎてしまいました。

自分はでてきな祭のときに初めておでんという存在を知り、でてきな祭の当日におでんに入ることを決め、そして1年たったら代表という立場になっていました。

正直自分でもびっくりしています。一年前の自分が今の姿を見たらびっくりして腰を抜かすと思います。

自分が代表になろうと思った理由はというと、前に出てみんなのことまとめることを経験したことがなかったからです。そして、やるからには頑張ろうと決意したのですが、実際にはうまくいかないことが大半で今も頑張っている途中です。どうやったら人に動いてもらえるのか、自分1人で取り組むだけではなく周りの人に指示を出しながら動くことなどうまくいかないことばかりです。そして、代表をやっている中で気づいたことは「自分はいろいろなことがわからないのだ」「知らないことがたくさんあるのだ」ということでした。

せっかく気づくことができたのですから、これからは自分が「井の中の蛙、大海を知らず」の蛙にならないように周りをしっかりみて、そして海の深さや空の広さを知って行動できるように頑張りたいです。
(おでん代表：宮崎隆行)

こんにちは。お久しぶりです。前代表のみっきーです。早いもので代表から退いてから5か月近く経ちました。近頃は代表を辞めたからこそ思うこと、感じるが増えてきました。代表だったときは、自分に求められることが多く、それにより自分も考えたり経験したりする機会が多かったのですが、辞めてからは(当たり前ですが)めっきり減ってしまったように思います。逆に上級生・・・という立場もあり、人に対して求めること、言うことが増えました。

求められる以上に求めること、言われる以上に言うことは難しいなあ、と感じます。単に相手や自分のことを考えずに求めることは簡単です。結果が上手くいかなかったとしても、相手を責めるだけで終わってしまいがちです。さらに自分に非がないように見えることを良いことに自分の考えを凝り固まらせていって自分を腐らせてしまう気がします。

そうならないためにも、自分の場合はどうなのか、それは本当に正しいのか、また、相手に対して自分としてできることは何か、どうすれば上手くいくのか・・・考えることを大切に活動したいと思います。よろしくお願いします。

(おでん前代表：今井良紀)